

## 木造校舎の改修工事(6)

### -女子トイレ-

沈み込みが確認された既存女子トイレは、1階のみを改修し、2階は撤去することになり、不足分の行き先として南端の2階が候補に挙がった。ここは中2階だが天井が高いので床面を上げることで2階床から数段下がりを使うことができる。結果、2階の南端に女子トイレ、1階の北端に来客用トイレを設けることになった。

「学校」はバリアフリー法による「特定建築物」とされ、車椅子で利用できるトイレに関しては“設置義務”はないが“努力義務”がうたわれている。1階に設置が可能なのでその方向で話が進みかけた時、生徒さんたちの様子を丁寧に把握しておられる事務長さんが懸念を表明された。「ミッカイの場を提供するようなものでは？」と。ゆったりとした抑揚での鋭い指摘に一同不意を突かれた。街なかには車椅子トイレが増え始めた頃、未成年者の喫煙所になるなどして管理者が施錠してしまうトイレも見られたが、その後、使用頻度を上げることで対応すべく“多目的”トイレなどの名称になって街に浸透していったように思う。話し合いの結果、設置することにはなったが、生徒さんたちを温かく見守る事務長さんは管理の方法に心を砕かれ、結局、常時戸を開け放した状態にされている。細やかな心遣いがありがたい。

2階女子トイレは生徒数に対するブースの数をやや多めに設置してもスペースに余裕があったが、掃除流しの扱いに苦慮した。木造校舎といえばフランク・ロイド・ライトが自由学園を設計している。大正14年、この旧制中学の校舎が建てられた同じ時期に、ライトの設計による自由学園明日館(重要文化財)も竣工している。羽仁もと子・吉一夫妻によって創設された自由学園(旧制中学)の校舎で、大谷石が多用されているが木造の建物である。1999年～2001年にかけて保存修理工事が行われ、今は結婚式やコンサートなどに利用できる施設となっている。工事の様子は出版物にはなっておらず、建物の詳しい様子を知るには工事会社が保管する報告書を入手するしかなく、例によって図々しくお願いしてみると、大成建設が親切にも分厚い報告書をコピーして送って下さり感激したものだ。

その報告書を眺めていて、トイレの考え方に大いに共感させられた。トイレを使う時は、掃除用具などを目にする事なく使えて、掃除の時は、光と風が感じられる気持ちのいい場所で作業ができる、トイレを使う生徒たちへの配慮が見て取れる。掃除流しと掃除用具は一番奥の窓際に設置すれば、建具を立てなくてもトイレ使用時には見えない。あとは授業の合間におしゃべりができるような場や教室移動の際の持ち物が置ける場などを設け、出口には姿見を掛ける。手洗いカウンターの塗装は、青森に古くから伝わる漆を丈夫な拭き漆で仕上げてもらった。身も心も柔らかな生徒さんたちの近くに地域の良いものを置きたいという思いだった。

しかし、工事中に保護者の方から要望が入り、下階の男子トイレや隣の図書室との間の遮音をしっかりとしてほしいとのことで、床下と図書室側の壁に遮音用にグラスウールを入れた。工事の様子を見た生徒さんに不安を与えてしまったようだ。一番に考えなければならないのは、安心して使えるトイレだったと反省させられた。



掃除流しと掃除用具は  
トイレブースの奥に設置



ベンチコーナーと  
姿見

1階北端来客用トイレの前に車椅子で使えるトイレを設置した。ここでの車椅子トイレは、主に自力で車椅子トイレを使える人を想定したものである。不自由な人が苦勞する“向きを変える”という動作の必要がなく、横移動のみで使えるのがポイントだ。トイレブースに入ったらそのまま前進し、目の前にある横手摺を持って立ちあがり便器まで横移動する。用が済んだらまた同じ動作で車椅子に戻る。このトイレは建具を工夫すれば住宅等のかなり狭い場所にも設置が可能である。



横移動のみで使える  
車椅子トイレ  
常時開放されている

(完成写真につづく)